

# 2021年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

- 2021年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組の進め方を記述し、2021年6月自己点検委員会で確認した。
- また、2022年度第1回学校関係者評価委員会に報告した。
- アンダーラインは新規の意見・課題

大項目	中項目	2021年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1
重点目標	2. 重点目標と達成するための計画・方法 (1)学び直しの教育プログラムの開発	○新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、卒業生、社会人、外国人を対象とする新規の教育事業が展開できなかった。今後の実施に期待したい	新規	校長	■本年度の経営企画室の課題として、今後の実施に向けた具体的な検討を進めることになっている。
1 教育理念・目的・育人人材像	(2)育人人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	○職業実践教育を更に充実させるためにも、引き続き関連業界との連携の強化に取り組んでほしい。	継続	医療秘書科	■学校関係者評価委員会、医療事務分野教育課程編成委員会、実習先病院や卒業生にご提供いただく情報とご意見を学科運営に反映させ、専門分野の人材育成を推進する。
			新規	医療事務科	■学校関係者評価委員会、医療事務分野教育課程編成委員会、実習先病院や卒業生にご提供いただく情報とご意見を学科運営に反映させ、専門分野の人材育成を推進する。
			継続	診療情報管理専攻科	■病院実習、特別講演、採用活動等あらゆる行事を通して、また兼任講師や専門分野で就業する卒業生等からの情報収集に努め、医療業界の動向を知り、医療機関等が求めるニーズを把握し、それに見合った人材の育成を目指す。
			継続	医療事務IT科	■病院実習、特別講演、採用活動等あらゆる行事を通して、また兼任講師や専門分野で就業する卒業生等からの情報収集に努め、医療業界の動向を知り、医療機関等が求めるニーズを把握し、それに見合った人材の育成を目指す。
			継続	診療情報管理科	■病院実習、特別講演、採用活動等あらゆる行事を通して、また兼任講師や専門分野で就業する卒業生等からの情報収集に努め、医療業界の動向を知り、医療機関等が求めるニーズを把握し、それに見合った人材の育成を目指す。
			継続	くすり・調剤事務科	■学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、薬店実習、校内企業説明会などの行事や兼任講師、専門分野で就業している卒業生などと情報を共有し、専門分野において求められる人材を育成する。
			継続	介護福祉科	■臨地実習を通じた職業実践教育に加え、第一線で活躍されている経験豊富な方々や卒業生等を講師としてお迎えして特別講座を実施する。 ■区社協や地域包括支援センター等との連携を働きかけ、地域に入っていける力を養成する。
		(4)社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	○外国人の支援や社会人の学び直しは新型コロナウイルス感染症の影響により、刻々と変化しているが、引き続き社会のニーズを的確にとらえ、先を見越して運営することが望まれる。	継続	校長
2 学校運営	1. 運営方針	○運営方針の周知の仕組みはしっかりとしている。常勤の教職員に対する浸透度の確認は工夫して進めている。兼任講師に向けた働きかけの工夫が引き続き求められる。	継続	校長	■兼任講師への働きかけについては、オンラインツールの有効活用を引き続き推進する。
3 教育活動	2. 教育方法・評価等 (1)教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	○現場で求められる人材像の変化に対応するカリキュラムを創意工夫するように引き続き努めてほしい。 ○必要な知識と技術を身につける前提に、本人の勉強に対する動機づけや気持ちの持続性があると思われるため、その仕組みの検討も引き続き行ってほしい。 ○すぐに使うことのできる知識や技術も大切であるが、社会に出て継続して学んでいく力や、折れない心も身につける教育に引き続き取り組んでほしい。	継続	校長	■卒業後も職業人として自ら学びを継続していけるよう、学生が興味を示す科目やカリキュラムを開発し、学びの楽しさを体験する機会をより多く提供する。そのために、各学科・部署が協力し、引き続き具体的な推進を図りたい。
			継続	医療秘書科	■学校関係者評価委員会及び医療事務分野教育課程編成委員会における意見を基に、学生を医療現場で求められる人材に育成できるよう、カリキュラムの見直しを随時行う。 ■専門知識・技能の習得とともに、初年次教育におけるキャリア教育、社会人化教育を推進する。
			新規	医療事務科	■学校関係者評価委員会及び医療事務分野教育課程編成委員会における意見を基に、学生を医療現場で求められる人材に育成できるよう、カリキュラムの見直しを随時行う。 ■専門知識・技能の習得とともに、入学後早期よりキャリア教育、社会人化教育を推進する。

	継続	診療情報管理専攻科	<p>■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会でのご意見を基に、現場で求められる人材を輩出できるよう常時カリキュラムの見直しを行い、より良い教育内容の提供を目指す。</p> <p>■単なる知識や技術の習得ではなく、自分の将来像を描き、何のために必要なかを意識させ、目標をもって自主的に学ぶ姿勢を継続できる力を身につけるよう指導する。</p>	
	継続	医療事務IT科	<p>■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会でのご意見を基に、現場で求められる人材を輩出できるよう常時カリキュラムの見直しを行い、より良い教育内容の提供を目指す。</p> <p>■単なる知識や技術の習得ではなく、自分の将来像を描き、何のために必要なかを意識させ、目標をもって自主的に学ぶ姿勢を継続できる力を身につけるよう指導する。</p>	
	継続	診療情報管理科	<p>■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会でのご意見を基に、現場で求められる人材を輩出できるよう常時カリキュラムの見直しを行い、より良い教育内容の提供を目指す。</p> <p>■単なる知識や技術の習得ではなく、自分の将来像を描き、何のために必要なかを意識させ、目標をもって自主的に学ぶ姿勢を継続できる力を身につけるよう指導する。</p>	
	継続	くすり・調剤事務科	<p>■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会における意見を基に、学生を現場で求められる人材に育成できるよう、カリキュラムの見直しを随時行う。</p> <p>■授業内容と共に現場での経験談を交えて授業がどのように役立つか学生に伝えることや、授業コマごとの目的を明確に伝えることで学習意欲を高める。</p>	
	継続	介護福祉科	<p>■2022年度「情報と社会」という科目が開講される。ICTとAIの介護現場への導入が本格化している状況に適応することを旨とする。</p> <p>■「TPC」「生涯学習」「最適解思考」「学びのコツ」に関する学習を行っていく。具体的には「解らないままにしない」「確かめる」ことを重点課題に設定し、これらの習慣化を目指して学習活動に組み込んでいく。</p>	
	継続	看護科	<p>■臨地実習再開により、実習の効果を臨床と連携し学びや課題を確認しながら取り組んでいく。</p> <p>■新カリキュラムのねらいを臨床の場にも発信し、卒業時の到達目標を共有しながら取り組んでいく。</p>	
○発表形式の授業は、自分の考えを人前で話すことの慣れが就職活動や仕事に役立と言われている。引き続きの取り組みが望まれる。	継続	医療秘書科	<p>■人前でアサーティブな自己表現ができるよう、発表形式の授業やキャリアサポートプログラム、学校・学科行事等でスキルの向上を図る。</p>	
	新規	医療事務科	<p>■人前でアサーティブな自己表現ができるよう、発表形式の授業やキャリアサポートプログラム、学校・学科行事等でスキルの向上を図る。</p>	
	継続	診療情報管理専攻科	<p>■発表形式の授業を通じてプレゼンテーション力を高め、就職活動及び就職後に役立てる。</p>	
	継続	医療事務IT科	<p>■授業だけではなく学校生活における様々な場面において、自分の考えを他者に理解してもらえるよう表現することは非常に重要であるので、1年次から段階を経て意見を発表する機会を与え、徐々に習熟するよう指導する。</p>	
	継続	診療情報管理科	<p>■授業だけではなく学校生活における様々な場面において、自分の考えを他者に理解してもらえるよう表現することは非常に重要であるので、1年次から段階を経て意見を発表する機会を与え、徐々に習熟するよう指導する。</p>	
	継続	くすり・調剤事務科	<p>■授業内において個人やグループで発表をする機会を設けており、クラスメイトや教員からフィードバックを得ることでより内省や気づきの機会となっている。本年度も継続して実施する。</p>	
	継続	介護福祉科	<p>■「調べ学習」「考察学習」「創作活動」等を学習活動の中心に据え、それらの成果を伝えるように発表(表現)することを日常的に繰り返す。</p>	
	継続	看護科	<p>■少人数での意見交換は実習における日々のカンファレンスを通し各自の意見発表の場を設け取り組んでいく。</p> <p>■クラス全体での討議は合同カンファレンスの機会を設けテーマに沿った討議の場を設け取り組んでいく。</p>	
	○高校の現場ではアクティブラーニングが進んでいる。2020年度からそれに慣れた生徒が卒業する。引き続きアクティブラーニングに注力していただきたい。	継続	医療秘書科	<p>■対面授業、オンライン授業の双方の授業形態において、学生の主体的な学びの要素を取り入れるよう工夫していく。</p>
		新規	医療事務科	<p>■対面授業、オンライン授業の双方の授業形態において、学生の主体的な学びの要素を取り入れるよう工夫していく。</p>
継続		診療情報管理専攻科	<p>■一方的に講義を行う従来型の授業形式にとらわれず、対話ができるアクティブラーニング型授業への変換を推進する。オンライン授業および対面授業において、学生の主体的な学びを進められるよう可能な科目から取り入れる。</p>	
新規		医療事務IT科	<p>■一方的に講義を行う従来型の授業形式にとらわれず、対話ができるアクティブラーニング型授業への変換を推進する。オンライン授業および対面授業において、学生の主体的な学びを進められるよう可能な科目から取り入れる。</p>	

	新規	診療情報管理科	■一方的に講義を行う従来型の授業形式にとらわれず、対話ができるアクティブラーニング型授業への変換を推進する。オンライン授業および対面授業において、学生の主体的な学びを進められるよう可能な科目から取り入れる。	
	継続	くすり・調剤事務科	■各授業ごとに調べ学習や作問の実施、ビデオ教材の使用、グループワーク、ペアワークなど座学だけでなく主体的に学ぶことや周囲と協働しながら学ぶことができる授業を実施している。 ■教員の研修への参加や学内での情報共有を行い、さらに学生が主体的に学ぶことができる環境を整える。	
	継続	介護福祉科	■学生の学習活動を中心に据えた授業設計を、兼任講師も含めて周知し、授業公開を活用してアクティブラーニングの質を高めていく。	
	継続	看護科	■授業において講義中心でなく、演習など学生に思考させる授業展開を取り入れ取り組んでいく。	
<p>○新型コロナウイルス感染症への対応については、変化に革新的に、スピード感をもって適応できている。今後は質の部分上げて、より充実した教育になるようにしていただきたい。</p> <p>○オンライン授業は教員側の作り方、機能の使い方によって、学生の参加意識が変わってくるため、引き続き工夫することが望まれる。</p> <p>○オンライン授業を継続していくにあたり、教員からの一方的な教授にならないように工夫していただきたい。</p>	新規／継続	医療秘書科	■オンライン授業は学生の学習意欲向上を導くあらたな授業スタイルとして定着化が進んでいる。教員は引き続き個人のスキルアップを図り、情報を共有しあうことで質の向上に努める。 ■オンライン授業においても学生と教員のコミュニケーションを重視し、学生の主体性を育てる工夫をしていく。	
	新規	医療事務科	■オンライン授業は学生の学習意欲向上を導くあらたな授業スタイルとして定着化が進んでいる。教員は引き続き個人のスキルアップを図り、情報を共有しあうことで質の向上に努める。 ■オンライン授業においても学生と教員のコミュニケーションを重視し、学生の主体性を育てる工夫をしていく。	
	新規／継続	診療情報管理専攻科	■各教員が、より質の高いオンライン授業を実施できるよう創意工夫を続ける。その手法を共有し、向上していける態勢を構築する。	
	新規／継続	医療事務IT科	■各教員が、より質の高いオンライン授業を実施できるよう創意工夫を続ける。その手法を共有し、向上していける態勢を構築する。	
	新規／継続	診療情報管理科	■各教員が、より質の高いオンライン授業を実施できるよう創意工夫を続ける。その手法を共有し、向上していける態勢を構築する。	
	新規／継続	くすり・調剤事務科	■リアクションシートや授業アンケートの結果などをもとに学生の理解度や学習意欲を確認し、実施方法を検討する。 ■授業公開や研修へ積極的に参加し、最新情報の取得に努める。	
	新規／継続	介護福祉科	■新型コロナウイルス感染症対応については、過不足のない適切な対応を心掛け、学習活動に活かして(取り込んで)いくことで、現場での実践に備える。 ■オンライン授業については、教材作成やICTツールのオペレーションなどのスキルとコンピテンシーを高めることで適応を図る。	
	新規／継続	看護科	■授業以外に実習においてもオンラインによる現場の専門職との意見交換など、遠隔でも学べるような学習方法を工夫をしながら取り組んでいく。 ■オンラインでの授業後は授業アンケートや対面授業の際に習熟度などを確認する場を設けて取り組んでいく。	
	新規／継続	教務委員会	■共通で受けさせる検定の問題など、GoogleFormsなどのアンケートツールなどを使用し、学生がいつでもオンラインで問題を解け、解説を読める環境づくりを目指す。	
	継続	校長	■オンライン授業を円滑に実施するための校内インフラを引き続き整備・拡充するとともに、対面と併用したハイブリッド型授業の効果的な運営のノウハウを、授業公開の機会なども活用し、共有していきたい。	
		継続	医療秘書科	※前に同じ
		新規	医療事務科	※前に同じ
		継続	診療情報管理専攻科	※前に同じ
	継続	医療事務IT科	※前に同じ	
	継続	診療情報管理科	※前に同じ	
	継続	くすり・調剤事務科	■再度感染が拡大した場合に備え、全授業をオンラインで対応できるように兼任講師と連携を取りながら継続して体制を整えておく。	
	継続	介護福祉科	■感染症対策として、予防は勿論、罹患したときの対処方法などを、自ら考え判断できるよう、ノウハウの周知に努める。	

		継続	看護科	※前に同じ
		継続	総務課	■昨年度、全教室のFree Wi-Fi、有線接続口を配備した。これらに不具合が発生しないように注視していく。
		継続	学務課	■授業を止めないために、また、クラスターが発生しないように、昨年同様、マスク着用、手洗い、アルコール消毒等、感染拡大防止対策の周知と徹底を図る。
		継続	CSC	■2021年度は、キャリアサポートプログラムの内容にオンライン指導できる動画を取り入れたり、内定者や卒業生の報告会または関係者講演等を収録しオンライン配信してきた。今後もこの取り組みを進めていく。
		継続	広報室	■来校型オープンキャンパスでは換気、ソーシャルディスタンス、机・備品の除菌、消毒液の設置、体温測定、マスクの着用、人数制限を設けるなど、安心・安全な開催を周知するとともに、並行して複数のオンライン型を実施し、参加者を分散させ感染リスクを抑えつつ、遠方の受験生などにも対応してきた。引き続きこれらを取り組んでいく。
		継続	教務委員会	※前に同じ
		継続	学生委員会	■新型コロナウイルスに対する外部の情報や見解も意識しながら、本校としての感染(拡大)防止対策を検討して実施していく。
	<p>○新型コロナウイルス感染症禍の中でも入り口から出口までクオリティを落とさず学校運営をしていること、また、以前より実績を上げていることを高く評価する。引き続き創意工夫することを期待したい。(2021年度総評)</p> <p>○自己点検・自己評価の各評価項目、活動内容を確認したが、新型コロナウイルス感染症の影響をあまり感じさせないどころか、今まで以上の活動ができている。教育活動が十分に結果に結びついているため、引き続きの取り組みに期待したい。(2021年度総評)</p> <p>○変化に対応しながら、新しい形をつくっている点を評価する。変化に対応しながら学んだ人材は貴重であるため、引き続き努力してほしい。(2021年度総評)</p>	新規	校長	■職業人教育の在り方について、ウィズコロナ、アフターコロナといった今後の環境の変化に対応できるよう、検討を続け、さらに工夫したい。
		新規	医療秘書科	■対面授業とオンライン授業のそれぞれの良さを生かしたハイブリッド型の授業により、多様化する学生に適應できる授業スタイルを引き続き研究する。 ■新型コロナウイルス感染症禍に学生時代を過ごした経験を将来に生かせるよう、学生のサポートに努める。
		新規	医療事務科	■対面授業とオンライン授業のそれぞれの良さを生かしたハイブリッド型の授業により、多様化する学生に適應できる授業スタイルを引き続き研究する。 ■新型コロナウイルス感染症禍に学生時代を過ごした経験を将来に生かせるよう、学生のサポートに努める。
		新規	診療情報管理専攻科	■新型コロナウイルスの影響を考えながら、学生の学校生活のクオリティを落とさない授業形態、クラス運営、学校行事を常に検討し、実施する。 ■新型コロナウイルス感染症禍で学んだ健康管理や感染症対策を引き続き実践しつつ学生のサポートに努め
		新規	医療事務IT科	■新型コロナウイルスの影響を考えながら、学生の学校生活のクオリティを落とさない授業形態、クラス運営、学校行事を常に検討し、実施する。 ■新型コロナウイルス感染症禍で学んだ健康管理や感染症対策を引き続き実践しつつ学生のサポートに努め
		新規	診療情報管理科	■新型コロナウイルスの影響を考えながら、学生の学校生活のクオリティを落とさない授業形態、クラス運営、学校行事を常に検討し、実施する。 ■新型コロナウイルス感染症禍で学んだ健康管理や感染症対策を引き続き実践しつつ学生のサポートに努め
		新規	くすり・調剤事務科	■前年度は学生が積極的に検定問題などに取り組んでおり、検定の合格率が高かった。今年度も自主的に取り組むことができるようにクラウドを通じて問題の共有を行い自主的に学習できる環境を整備する。 ■世間一般にオンライン環境が整備されたことにより、前年度は展示会への参加や化粧品工場の見学、企業説明会をオンラインにて実施することができた。本年度も感染状況などを考慮しながらハイブリッドで実施する。
		新規	介護福祉科	■新型コロナウイルス感染症に関する課題は、新たな局面に入ったと認識している。学生の学校生活を「コロナ後」にシフトしていくためにも、学生主体の学校生活づくりを支
		新規	看護科	■感染対策や健康管理は看護師の職業意識を向上させることにつながり、新型コロナウイルス感染症禍で取り組んだ工夫は継続して取り組んでいく。
(4) 授業評価を実施しているか		○アンケート結果をより有効に活用するため、定期的な見直しにおいて、必要な改善を進めてほしい。	継続	点検委員会
5.教員・教員組織 (2)教員の資質向上への取組	○授業公開は、兼任講師の参加について、さらなる拡大を期待している。	継続	教務委員会	■兼任講師の公開方法を次のように変更する。従来は授業公開の許可が下りた兼任講師のみ、参観を許可していた。これを、原則兼任教員はすべての授業を公開することとし、公開することができない授業がある場合に申し出ていただく方法とする。
	○新型コロナウイルス感染症禍の中で、オンラインと対面のハイブリッド型で授業を進めていくと思われるが、オンラインを使った授業をいかに工夫するかが大事なポイントである。その工夫を授業公開等で共有し、学校全体が一つになっていくことに期待したい。	継続	校長	■オンライン授業のインストラクションスキル向上のため、教員間(兼任講師も含む)でノウハウを共有できる機会を、授業公開等の場を活用し、引き続き提供したい。
		継続	教務委員会	■コロナ関連で登校は出来ないが、オンライン授業は受けることができる学生に、対面授業と同時にオンライン授業を行えるか検討する。

5.教員・教員組織 (3)教員の組織体制の整備	○専任教員と兼任講師の連携においては、オンラインも活用することを引き続き検討してほしい。	継続	校長	■年度初めの全教員会・学科会議は、本年度もオンラインでの開催を予定している。	
		継続	医療秘書科	■専任教員と兼任講師の連携については、学科会議をはじめ、打ち合わせにおいてもオンラインを積極的に活用していく。 ■学生への課題提示やオンデマンド教材の配信等についても、専任教員と兼任講師とで連携し、引き続き学生が学びを継続しやすい環境整備に取り組む。	
		新規	医療事務科	■専任教員と兼任講師の連携については、学科会議をはじめ、打ち合わせにおいてもオンラインを積極的に活用していく。 ■学生への課題提示やオンデマンド教材の配信等についても、専任教員と兼任講師とで連携し、引き続き学生が学びを継続しやすい環境整備に取り組む。	
		継続	診療情報管理専攻科	■年度当初の学科教員会はオンラインで実施した。従前のおり毎回の授業の際にコミュニケーションを密に取り、連携・協力する体制は継続し、加えてGmailでのメールやドライブの共有によりオンラインを活用した情報共有をさらに推進していく。	
		継続	医療事務IT科	■年度当初の学科教員会はオンラインで実施した。従前のおり毎回の授業の際にコミュニケーションを密に取り、連携・協力する体制は継続し、加えてGmailでのメールやドライブの共有によりオンラインを活用した情報共有をさらに推進していく。	
		継続	診療情報管理科	■年度当初の学科教員会はオンラインで実施した。従前のおり毎回の授業の際にコミュニケーションを密に取り、連携・協力する体制は継続し、加えてGmailでのメールやドライブの共有によりオンラインを活用した情報共有をさらに推進していく。	
		継続	くすり・調剤事務科	■年度当初の学科会議をオンラインにて実施した。 ■メールでの連絡やクラウドの共有を行っており、オンラインを活用した情報共有の推進と個人情報などの取り扱いにおけるリスク管理を並行して実施していく。	
		継続	介護福祉科	■ICTの利活用を積極的に行い、より良い連携(協働関係)を築く。	
		継続	看護科	■講師との情報共有は状況に応じて対面・オンラインまたは両方活用などフレキシブルに取り組んでいく。どの手段においても各講師・担当者との意見交換を重要視して取り組んでいく。	
4 学修成果	2. 資格、免許の取得率	○資格・検定取得は、専門学校教育の大きなテーマの一つであることから、その取り組みと成果を本校の強みとして謳えるように、引き続きしっかりと進めてほしい。	継続	校長	■指導にあたってはオンラインも活用し、引き続き各学科で着実に取り組みを進めて、成果に結びつけた。
			継続	医療秘書科	■学科運営計画に示した卒業時検定合格率の達成に向け、一部科目については進度別クラス編成を継続する。 ■2年次後期の検定にも挑戦できる科目配置にしているため、検定上位級の受験者数を増やし、伸び残しのない指導を継続する。
			継続	診療情報管理専攻科	■診療情報管理士試験合格率を高めるための対策を強化する。また、併せてがん登録実務初級者認定試験、医療情報技師能力検定試験の取得率増加を目指し、必要な対策を実施する。
			継続	医療事務IT科	■学科目標を設定し、その達成のための対策を推進する。特に診療報酬請求事務能力認定試験の取得率の増加を目指す。また業界ニーズの高い医師事務作業補助技能認定試験に注力し、受験率を高め合格者を増やす。
			継続	診療情報管理科	■学科目標を設定し、その達成のための対策を推進する。特に診療報酬請求事務能力認定試験の取得率の増加を目指す。また業界ニーズの高い医師事務作業補助技能認定試験に注力し、受験率を高め合格者を増やす。
			継続	くすり・調剤事務科	■多くの学生が学科が目標としている資格試験やさらに上位級に挑戦するように動機づけを行う。 ■学生が自身の成長や苦手な箇所を認識できるように問題演習の点数を継続的に計測し、その結果に基づいたアドバイスを行う。 ■企業と連携しながら合格に向けたカリキュラムの見直しを行う。
			継続	介護福祉科	■国家試験100%合格をめざす。その他、任意の資格についても、学生自身が将来を見据えて積極的に挑戦できるように支援する。
			継続	看護科	■看護師免許取得に向け、低学年から試験対策に取り組んでいく。 ■模擬試験結果は自己学習の振り返りに活用し、合格を意識した学習が定着出来るような学習指導に取り組んでいく。
			3. 卒業生の社会的評価	○卒業生は、就職先において高く評価され、多くの信頼を得ているが、職業実践教育の評価の観点からも、就業動向の定期的な把握が必要であり、訪問、面談をはじめ、Gメール等による調査も進めて、引き続き状況把握に努めてほしい。	継続

5 学生支援	1. 就職等進路	○学生の多くは、学校求人により就職活動を行っていることから、引き続き学生の希望に基づく求人先の確保・開拓に努めてほしい。 ○キャリアサポートセンター担当職員の対応力は学生の就職指導・活動支援に直接かかわるものであることから、引き続き担当職員のスキルアップを進めてほしい。	継続	CSC	■2021年度、特に医事系において大規模病院(特に大学病院、国公立病院)への採用が増えた。2021年度の実績ある病院と連携し、2022年度への採用へ繋げていく。 ■担当職員の資格取得、研修への参加を積極的に行っている。今年度も引き続き、積極的な参加を促していきたい。
		○新型コロナウイルス感染症による社会状況の変化により、企業等ではウェブ面接の導入が進み、メリットも感じている。対面の面接とは伝え方や感じ方が異なるため、授業等において指導を取り入れてほしい。	継続	CSC	■ウェブ面接については、授業では注意点や実施にあたってのポイント、また実際にウェブ面接の体験を通して指導していく他、個別にも希望者に対し実際にウェブの模擬面接を行い指導していく。
	2. 中途退学への対応	○入試区分や入学動機の強弱、入学後の学習や学校生活への適応をはじめ、退学の原因は年によって傾向が異なるが、記録の整理、分析をしっかりと行い、情報共有の仕組みを積極的、効果的に利用して、引き続き防止活動を進めてほしい。	継続	校長	■新型コロナウイルス感染症禍にあっても退学防止については着実に成果が上がっており、本年度も学生委員会を中心とした事例研究を継続したい。
			継続	学生委員会	■AO入試での入学者に限らず、全学生を対象として分析を行い、退学者防止に努めていく。
	6. 卒業生・社会人	○卒業後の相談とフォロー体制の充実、学校選択の重要な観点でもあることから、引き続き前向きな取り組みに期待したい。 ○Gメール等を活用した、(卒業生の状況が把握できるような)ネットワーク作りを進めてほしい。また、ネットワーク作りだけでなく、卒業生に対するフォローの強化も進めてほしい。	継続	CSC	■既卒者の就(転)職希望者にも積極的に対応している。2022年度は、より積極的に既卒者へのアプローチを行っていききたい。 ■2021年度、Gメールを通じての転職相談等も受付けており、実際にあつせんも行ってきた。2022年度は、より効率的にGメールを活用し、転職者への相談やあつせんを行っていききたい。
			○卒業生支援講座については、卒業生のニーズを把握し、内容の充実・強化に努めてほしい。	継続	校長
継続			CSC	■卒業生支援講座の企画についても卒業生と接する機会を通じニーズの把握に努める。 ■運営の仕方も改善の余地があり、学校全体として見直していききたい。	
継続			校友会事務局	■2月に開催した卒業生支援講座の参加者に対して、今後取り扱ってほしいテーマについてアンケート調査を実施し集計した。このデータを次回以降の講座開催に活用して	
6 教育環境	(2)学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	○感染症に関しては、学校保健安全法に基づき対応しているが、学内感染を予防するためにも、インフルエンザなどについては、引き続き所轄からの流行情報を的確、適切に発信して、周知、徹底を図ることが望まれる。	継続	学務課	■インフルエンザなどの流行情報を把握し、必要であればこれまでの感染防止対策の取り組みを見直す。 ■新型コロナウイルスの感染防止対策と同様に、マスク着用、手洗い、アルコール消毒について、学生・講師・教職員全員に周知して徹底する。 ■流行情報の把握や保健室職員との連携により、学生や教職員に情報提供を行いながら感染防止を図る。
7 学生の募集と受入れ	1. 学生募集活動	○高校における専門学校への理解や認識が必ずしも進んでいない。学科ごとに、仕事内容、雇用形態、卒業生の様子、企業の評価などの情報提供をもっと工夫してほしい。	継続	広報室	■高校訪問を1都3県の重点校を中心に行い、高校教員へ本校の特徴を理解してもらったうえで信頼関係の構築をはかっている。また、昨年度の募集活動を検証しつつ、今年度の募集活動計画を作成するなかで、アピールすべき情報を精査し本校の強みである就職の強さと業界とのつながりの厚さを訴求していくよう心掛ける。
		○新型コロナウイルス感染症禍でも運れることなく、しっかりと教育ができていないことを、募集においても強みとして生かしていただきたい。 ○昨年度の同時期に比べるとオンライン授業のスキルが向上している。募集活動においても強みになると思われる。上手くアピールに繋げてほしい。(2021年度総評)	新規 継続	広報室	■本校の「新型コロナウイルス感染症の対応方針」や「授業開始に向けたルール」に基づき、安全に対面授業を中心とした授業運営していることをアピールする。 ■オンライン授業によるきめ細かいサポートをアピールする。
		○オンラインは物理的な距離がなくなるため、今まで検討してきた社会人を対象とした教育も行いやすくなる可能性がある。募集に繋げることを期待したい。	継続	校長	■新型コロナウイルス感染症禍において、教育活動や募集活動の様々な場面でオンラインが普及してきている。社会人対象の教育も含めて、今後もオンラインの活用を積極的に図っていききたい。
		継続	広報室	■各学科の授業運営方針に基づきアピールしていく。	
9 法令等の遵守	2. 個人情報保護	○学生には、特にSNSについて、個人情報保護、プライバシー保護、守秘義務等の観点からの注意喚起が引き続き求められる。	継続	事務局長	■SNSの適切な利用を、ガイドブックや教員からの指導により引き続き推進する。 ■新型コロナウイルス感染症に関する個人情報より報については、学内メールの閲覧者を限定し情報の共有を禁止している。
			継続	学生委員会	■本校のポータルサイトに学生生活ガイドを掲載し、その中で個人情報の取扱いについての注意喚起を常に見られるようにしている。
10 社会貢献・地域貢献	2. ボランティア活動	○ボランティア活動は人材育成の視点から有意義なものであるため、さらに仕掛けを工夫して奨励してほしい。また、学校で単位認定されることもしっかり告知して活動を支援してほしい。	継続	学生委員会	■本校のポータルサイトの中にボランティア活動の専用ページを作り、随時更新していく。